

## EMT981 再生系の再構成(25)

### －ハイドンを聴く(16)－

#### 1. はじめに

前報(3)において EMT981 から Truphase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

#### 2. EMT981 の試聴方法

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(\*)→TruPhase→.300B

\* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。  
再生する CD はハイドンの交響曲です。

Centurion Music 222839-203

ハイドン 交響曲第 102 番

交響曲第 104 番<ロンドン>

ジェイング・ローバー指揮ロイヤルフィルハーモニックオーケストラ

ARCHIV UCCA-3161/2

ハイドン 天地創造

ジョン・エリオット・ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイスト

#### 3. EMT981 の試聴結果

ローバー指揮ロイヤルフィルハーモニックオーケストラによる交響曲第 102 番と交響曲第 104 番は、大編成のオーケストラらしいスケールの大きさと細部のディテールの精細な表現が感じられます。

ハイドンの天地創造は、バッハの宗教曲を数多く手がけている、ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイストによる演奏です。1995 年の録音の CD2 枚組の大曲にかかわらず、フレッシュでディテールの再現も十分で、さすがにアナログ時代から宗教曲の制作で定評のある ARCHIV の CD です。ソロイストと合唱の定位もよく、清楚なソプラノ、伸びのあるテノール、落ち着いたバスの歌唱や広がり感のある合唱陣が、間接音も含めてリアルです。

#### 4. まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、ともに大編成の演奏です

が、特に天地創造は大曲の醍醐味ある演奏が楽しめます。

以上